

信濃川沿いの地盤条件

調査日：平成 16 年 11 月 8 日（月）[国土交通省北陸地方整備局河川部に資料提供を依頼]

班：地盤土構造マネジメント班 [古関・石原]

分類別：被災状況

キーワード別：河川堤防、液状化

調査結果

信濃川に沿って下流から上流に向けて図 1 に示す位置のボーリングデータを示すと、図 2 のとおりとなる。A、B 地点では、液状化の可能性のある砂あるいはシルト層が数 m 以上存在するが、C～E 地点では、深度 2～3 m から固い砂礫層となるため、液状化する可能性がある層は表層の 1～2 m と非常に薄い。信濃川中流域で液状化層が限定的であるのは、河岸段丘地形で浸食作用が強く砂などの堆積作用が少なかったためである。このように震源域近傍の信濃川中流域で液状化層が限定的であったことが、河川堤防の大被害が少なかった原因の 1 つであったと考えられる。



図 1 ボーリング位置図

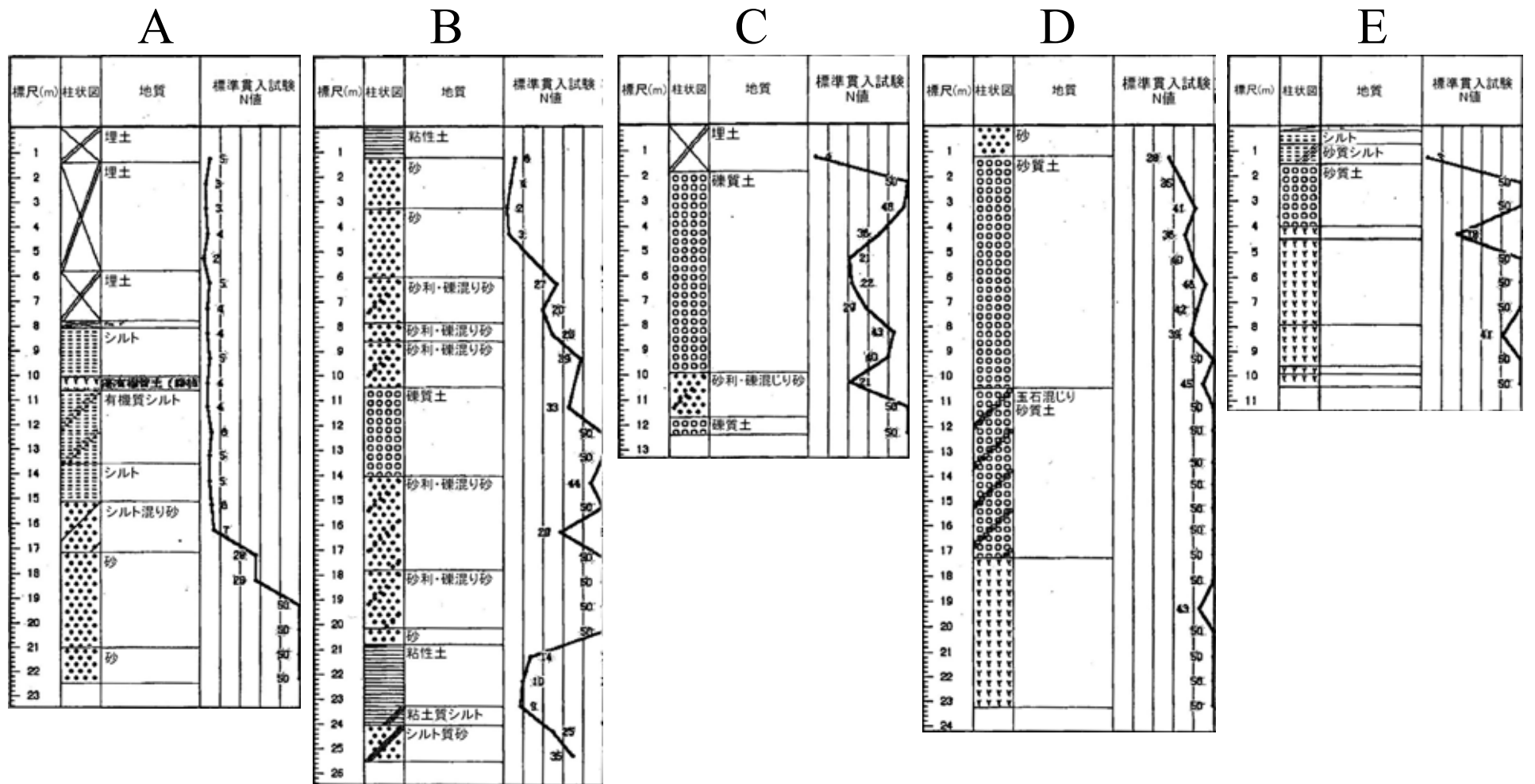


図2 ボーリング柱状図 (国土交通省北陸地方整備局提供)